



取材先：NPO 法人埼玉乳がん臨床研究グループ <http://www.sbccsg.org/>
(Saitama Breast Cancer Clinical Study Group; SBCCSG)

事務局 新都心レディースクリニック 甲斐敏弘先生

取材日：2012年10月25日

日頃、仕事や家族優先の皆様、忙しさを言い訳に自分のことは後回しにしていますか？
先日、取材で県の保健医療部長のところへ伺った折、埼玉県の検診受診率の低さが話題
になりました（取材の詳細は「県庁の星 部長の輪シリーズ」の項を御覧ください）

今や2人に1人ががんになる時代、特に女性の罹患率トップの乳がんは16人に1人を
数え、年々激増しています。その上、当クラブの会員世代では罹患者がピークになります。

何より問題なのは乳がん検診受診率の低さです。特に埼玉は受診率が10%に満たず、
全国ワーストを競っています。これは由々しき事。折しも10月は乳がん月間ということ
で、探検隊もピンクリボン運動の一翼を担って「そうだ！検診に行こう」と、いざ取材へ。

埼玉県内の乳がん専門医で組織する「NPO法人埼玉乳がん臨床研究グループ」の事務局に
なっている、新都心レディースクリニックで検診を受け、続いて甲斐先生にお話を伺いました。

【NPO法人埼玉乳がん臨床研究グループ:SBCCSGとは】

「乳がんで苦しむ人を無くしたい」2000年に県立がんセンター院長の田部井先生を
中心に埼玉県の乳がん治療の最前線にいる専門医が組織し、2006年にNPO法人化。

先生方は激務の中、多施設共同臨床研究や、診療後の夜間に集まって難しい患者さんの
症例検討会を開くなど、埼玉県全体の乳がん治療のレベルアップを図っています。また、
休日を使って、乳がんフォーラムや乳がん無料相談会を開催するなど、患者さんや一般の
方への情報提供や検診受診の啓発活動にも取り組んでいらっしゃいます。

（参加メンバーと医療機関、詳しい活動内容等については、上記HPで）

【ここだけ受診率が高い？】

新都心レディースクリニックは、さいたま新都心駅の改札を出てすぐの所にあります。
女性が安心して寛げる明るい雰囲気のある待合室には、チョコレートやドリンク類が用意され、
ウフッ、女性には嬉しい心遣い。お約束の時間に伺うと、何と待合室は女性で一杯です。
「あれ？検診受診率が全国最低なはずなのに・・・」座る椅子がないほどなのです。

やはり10月は受診希望が殺到するそうです。こちらに限っては、検診受診率もかなり
高いようで、予約は来年の春まで一杯とのことでした。

【なぜ、乳がん検診が必要か？】

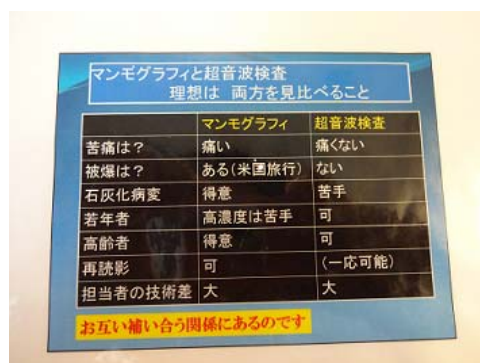
埼玉県を受診率が低いのは、やはり都市部では働く女性が多いからではないかというこ
とです。女性の社会進出に伴い、こんなところにも影響が出てくるのはとても残念です。

乳がんが急激に増えているのは、食生活の欧米化やライフスタイルの変化が原因と言われますが、日本人の乳がん自体が欧米化しているのではという興味深いお話も伺いました。

欧米では罹患者は多くても、検診受診率が70～80%あり、死亡率は低下しています。一方、日本は罹患者数・死亡者数共に右肩上がりです。やはり検診で極早期に発見できるか否かがポイントのようです。

乳がんは自分で発見できる唯一のがんで、月に一度の自己検診が奨められていますが、実は非触知の（シコリの触れない）乳がんが多いのだそうです。ですからシコリがないからといって安心はできません。そこで、僅か数ミリで発見できるマンモグラフィーが威力を発揮します。35歳位から2年に1度が推奨とのこと。50歳からは毎年ですよ。

ただし、若年層のお嬢様にはお奨めににならないように。数年前、映画のキャンペーンで20代の女性にやたらにマンモを受けさせたことが、専門医の間で問題視されたそうです。



	マンモグラフィ	超音波検査
苦痛は？	痛い	痛くない
被爆は？	ある(米国旅行)	ない
石灰化病変	得意	苦手
若年者	高濃度は苦手	可
高齢者	得意	可
再読影	可	(一応可能)
担当者の技術差	大	大

お互い補い合う関係にあるのです



乳がんの治療法は日々目覚ましく進歩しており、新薬も次から次へと出てくるそうです。NPOは、新しい治療法を治療現場に最良の方法で活かすため、単なる勉強会にとどまらず、名称が示す通り、あくまでも「臨床研究」にこだわり活動されているということでした。

医療の地域格差は存在しますし、残念ながら埼玉の人口比医師数は全国最低です（これも保健医療部長の項参照）。でも、乳がんに関しては、何だかとても心強い気がします。

【終わりに・皆様へ】

がんは予防できないのですから、早期発見・早期治療しかありません。特に乳がんは、早期発見ならほぼ100%近く治るといわれています。何より、乳房温存の可能性が大、抗がん剤を使わないで済む、よって体への負担が少ない、医療費の抑制に繋がる、すぐに仕事復帰できる（翌日から普通に動けます）等々良い事尽くめなのです。

当クラブにも、家族を含め多くのがん経験者がいます。がんはもう特別珍しいものではなくなりました。どうか自分だけは大丈夫なんて思わずに、年に一度、早期発見が有効とされる「5大がん検診」を受けましょう。仕事でも家庭でも中心的存在にある女性経営者は、大切な家族や社員のことを考え、日頃からの自己管理が必要ではないでしょうか。

この記事が、ホンの少し皆様の背中を押すきっかけになれば、大変嬉しく思います。



乳がん検診体当たりレポート in 新都心レディースクリニック



まずは受付で問診票に記入します。

受診する3人のうち1人は、さいたま市の特定健診のオプション検診を利用します。2人は任意の乳がん検診です。ということでコースも料金も問診票も別々です。

「痛いかなぁ」「胸小さいけど挟めるかなぁ」「サービスの
お紅茶頂いちゃう？」等々、賑やかにおしゃべりをしたり、
待合室に置かれた乳がんに関する本や資料を見たりしながら
待ち時間を過ごします。しばらくすると順番に名前を呼ばれ、
更衣室でピンクの検査着に着替えます。

やっぱりピンクなのね！



はじめに、診察室に呼ばれ、先生の問診と視触診
受診経験のあるメンバー曰く「他の先生と触り方が全然違う」
そうです。

次は、いよいよマンモグラフィー。さすがに同行取材というわけには行かないので、
残念ながら写真がありません。それぞれ複雑な表情で戻ってきました。痛かったの？
こちらのマンモグラフィーは日本女性の体に配慮した機種で痛みも少ないそうです。
さいたま市の検診はここで終了（自治体健診はマンモグラフィーと視触診のみ）

続いてはエコーです。エコーは痛くもかゆくもないですから大丈夫。

もし、マンモグラフィーの画像で気になるところがあれば、ここで細胞診をします。
(細胞診=エコーを見ながら胸に針を刺して検体を採取し、病理検査に出す)

はい、お疲れ様でした。検診は以上で終了です。

更に精密検査が必要であれば、本人の希望に合わせた病院へ紹介していただきます。
今や病診連携は常識ですが、NPOには県内各地の基幹病院の乳腺外科医がほとんど
名を連ねていますし、何よりメンバー相互の連携が密にできているので安心です。

会計の際には、受付の女性に「是非来年もいらしてくださいね」と言われたそうです。
毎年受けましょうね。